

第1分科会

子どもの思いを大切に、子どもが納得していく授業を目指して 朝倉明日香（岡谷市立上原小学校）



私の思いで学級経営や授業を行っていたという私自身の課題と向き合いながら、子どもが「やりたい」「分かってほしい」という思いで追究をすすめていくとはどういうことを考えてきました。そして、子どもが言葉として発したり、テストで解けたりしたことによってその事柄が「分かった」としていいのかということが私の悩みでした。

算数の「比」の授業を通してみえてきたことは、「子ども」が自分の思いで、「分からない」「どういうこと」と、自分なりに試行錯誤していく過程の大切さでした。子どもが「分からない」と発することを恐れてきた私にとって、ハッとした瞬間でした。

子どもが試行錯誤できる場づくり、教材研究のあり方、そして、子どもが「なるほど」「そういうことか」と実感していく授業づくりについて、先生方と語り合えたら嬉しいです。

キーワード：納得 算数 試行錯誤

子どもが自分事として学ぶ社会科の授業を目指して 田原 祐希（佐久市立臼田中学校）



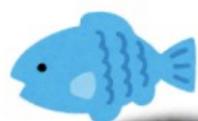
「中学生は高校入試が控えているし」…そんな思いのもと、私は子どもが「正しく理解できるようになること」を第一に、授業を進めてきました。しかし、「わかる」ことを意識しすぎると、子どもは正解だけを追い求め、どこか他人事のように学ぶ姿へと変わっていきました。「学びの深まりはおろか、子どもは学んでいるのか？そもそも私が学ばせているだけではないか？」…そんな違和感から私の研究が始まりました。もしかすると、同じような悩みを抱えている先生方も多いかもしれません。

そもそも「自分事」として学ぶとは、どういうことなのでしょう？そして、子どもの「自分事」としての学びを支える教師は、どんなあり方が必要なのでしょう？情報端末が普及し、子どもたちの学び方も以前より多様になりました。…そんな現代において、当日はもう一度学びの原点に戻って、直接楽しく語り合いたいです！

キーワード：自分事 社会 ICTのあり方

第2分科会

子どもが夢中になって学ぶ授業を目指して 畔上 洋太（長野市立徳間小学校）



3
10

総合的な学習の時間で夢中になる子どもの姿を目にした私は、教科の授業でも子どもが夢中になって学ぶ授業ができないものか、と考えるようになりました。研究発表会では、総合「矢出沢川調査」の実践や、算数「分数」の実践での子どもや教師としての私の姿を振り返る中で見えてきた以下の二点についてお話をさせていただきたいと思います。

★子どもはどんなときに夢中になって学ぶのか？

★子どもが夢中になって学ぶ授業には、教師としてどうあればいいのか？

教科の授業でも子どもが夢中になって学ぶ授業にしていくためには、何を大切にしていけばいいのか、是非一緒に考えていきましょう。

キーワード：夢中 総合的な学習の時間 算数



子どもの願いを理解し、見守る教師を目指して

長尾小百合（長野市立三陽中学校）



美術の授業で私は、丁寧に助言することで生徒の技術が向上すると思って指導してきました。しかし指導法にこだわるほど、自分の理想とする制作ができない生徒の気持ちを本当の意味で理解することができず、生徒の願いを置き去りにしていたのです。私は、生徒の願いを理解できる教師になりたいと考えるようになりました。

在籍校の実習に入ってもまだ、生徒の思いを聴く前に水面下で様々な展開を予想して先回りし、生徒の悩みを解決しようとしてしまう私。研究所で、生徒本人に任せてみることで見えてくるものがあるという視点をもらい、生徒一人一人に寄り添うような「見守り」を大切にして実習に向かいました。すると子どもの願いが自然と見えてきました。消極的な行為と捉えられがちな「見守り」。見守るとは何か、皆さんと一緒に考えてみたいです。

キーワード：見守る 美術 地域を題材として

第3分科会

その子らしく学ぶ姿を受け入れ、よさを支えていく教師を目指して

池森 潤（須坂市立相森中学校）



「子どもをわかりたいと思った私の中では、生徒の心の内に気持ちを寄せて考えていた。一方、その子の外側から捉えようとして見ていた。私は、生徒の心の内に入り込んでみたり、生徒の外側からみたりして、頭の中で様々な思いを渦巻かせて考えていた。目の前の生徒の姿を捉え、その姿が伝えようとすることを理解したり、その子を実感したりするのに、待つことが不可欠であることに気づいた。」

これは、私が研究所での振り返りを通して気づいたことです。それまでの私は、自分の価値観に当てはめて生徒と接することがあり、生徒との間に距離を感じ悩む時がありました。そんなとき、待つことで変わっていく私に気づき始めました。

一人一人のその子らしく学ぶよさを受け入れ、子どもたちと共によさを味わうことについてみなさんと共有できたらうれしいです。

キーワード：待つ 英語 内側と外側

生徒が自分らしくいられる支援～生徒にとことん付き合うことを通して～

北村 香織（長野市立更北中学校）



私は過去に大・中規模校に勤務してきました。どの勤務校にも不登校生はいましたが、電話連絡や家庭訪問が中心の支援になっていました。しかし、このままでいいのかという気持ちがずっと心の片隅にありました。転機は小規模校に異動になりA生と出会ったことです。不登校のA生の担任になったことで、もう一步踏み込んだ支援ができないかと考えるようになりました。そして、1・2年とA生の担任をし、A生が3年生になってからは研究所の実習授業を通して関わりを深めてきました。

A生を通して、「私や学校の当たり前を少し見直す」ことや「生徒の『やってみよう』を応援する」ことの大切さに気がきました。また、「自立」についても考える機会となりました。先生方とは不登校生についての悩みや考えを語り合いたいです。

キーワード：不登校 とことん 個に応じた支援

研究内容についてもっと詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

